

JAMA・JAPIA Web-EDI チェックシート

Version 1.0

2010年 4月1日



Japan Automobile Manufacturers Association

一般社団法人 日本自動車工業会
電子情報委員会 ビジネス システム部会



Japan Auto Parts Industries Association

社団法人 日本自動車部品工業会
電子情報化委員会 EDI部会

※ 各々のチェック事項につき、部分的にサポートしている場合でも、「○」を付けて下さい。
ただし、その場合はサポート範囲/内容を「備考」欄に記入して下さい。

※ 重要度が必須(◎)の項目が「○」でない場合は、その理由などを「備考」欄に記入して下さい。

※ 記入方法については、記入例を参考にして下さい。

JAMA・JAPIA Web-EDI チェックシート V1.0 記入例

記入日 2010年 3月 22日

項番	大項目	中項目	チェック項目	重要度	ガイドライン 参照先	チェック欄	備考	
				◎必須 ○強く推奨 △推奨		○対応済 ×未対応 -非該当		
1-1	データ授受基本要件	新着確認について	受信者への新着データファイル通知はファイルダウンロード以前に確認できること。(例、ログイン直後の画面で新着マークを表示するなど)	◎		○		
1-2			定期的データファイルの授受がないことも想定し、データファイルの新着はWeb-EDIにログインしなくても確認できことを推奨する。(例、メールでの通知など)。ただし、メール等を用いて通知する場合は、メール内にデータファイルの内容については記載しない事が望ましい。	○	3.1	×	メールによる通知機能は今後検討。	
1-3			新着データファイルの通知タイミングについては、データファイルが新着してから30分以内に通知できる事が望ましい。	△		○		
1-4	ダウンロードについて	ファイルダウンロード状況確認	受信者・発信者がデータファイルのダウンロードの状況を確認する方法として、Webインターフェイスでダウンロード状況を確認する機能を提供すること。 この機能をWebインターフェイスで提供しない場合、なんらかの代替手段を提供すること。	◎	3.2.1	○		
1-5		ファイル再ダウンロード	受信者がダウンロードしたデータファイルが何らかの理由で再度必要となった場合、受信者側の作業のみで再ダウンロードができること。この機能を提供しない場合、受信者側からの依頼に基づき迅速に再ダウンロードできること。 受注者による再ダウンロード機能は、以下が実施できること。 ・データファイルダウンロード機能で作成したデータファイルの単位で再ダウンロードできること。 ・Webインターフェイスで、再ダウンロードが必要なデータファイルを検索できること。 ・Webインターフェイスで、再ダウンロードが必要なデータファイルを指定できること。 ・再ダウンロード実施環境においては、「通常ダウンロードとは異なる手順を設ける」「再ダウンロード画面を設ける」などの「再ダウンロード」である事を受信者側が認識できる環境を提供すること。 ・データファイルの再ダウンロード実施後には、どのデータファイルが再ダウンロードされたのかを識別できること。この際、ダウンロード実施回数も表示させることが望ましい。 これらの機能を提供しない場合、なんらかの代替手段を設けること。	◎	3.2.2	○	再ダウンロードの実施回数を表示する機能は未対応。	
1-6		ファイル自動ダウンロード機能	ファイル転送型EDIを提供せずWeb-EDIのみを提供する場合、Web-EDIにはデータファイルを自動ダウンロードできる機能も提供できること。 なお、ダウンロードのタイミングはユーザーの任意指定とする。 ※“自動”ダウンロードとは、手の入出力操作を合理化するためコマンド発行などによりプログラムから自動でファイル授受を可能にする機能を指す。	◎	3.2.3	○		
1-7		アップロードについて	データファイルのアップロード機能を提供する場合、アップロード状況(正常終了、エラーを含む)を送信者が確認する機能を提供すること。特に、データファイルアップロード時にエラーが発生した際には、エラーを検知し、送信者に通知できること。 この際、アップロード時のエラーをメールでも通知できることが望ましい。	◎	3.3.1	○	アップロード時のエラーを検知し、結果確認画面で送信者が確認可能としており、メールでの通知は未実施。	
1-8	アップロード時のエラー内容が、通信エラーやデータ形式エラーの場合は、エラーの理由やファイル中の不正箇所を通知できることが望ましい。	△	○	通信エラーの場合は、エラーを通知。ただし、ファイルアップロード前にデータ形式の整合性を保障するため、データ形式エラーの通知は未想定。				
1-9	ファイル再アップロード	データファイルアップロード時にエラーが発生した場合、ファイル全体をエラーにすること。 また、データファイル再送にあたっては、エラーファイルはいったん削除し、不正部分を修正したデータファイル全体を再送してリハビリできること。	◎	3.3.2		○		
1-10		ファイル自動アップロード機能	ファイル転送型EDIを提供せずWeb-EDIのみを提供する場合、Web-EDIにはデータファイルを自動アップロードできる機能も提供できることを推奨する。 なお、アップロードのタイミングはユーザーの任意指定とする。 ※“自動”アップロードとは、手の入出力操作を合理化するためコマンド発行などによりプログラムから自動でファイル授受を可能にする機能を指す。	○	3.3.3	○		
2-1	授受ファイル要件	ファイル名	ファイル名は、基本的に英数字であること。	◎	4.1	○		
2-2		ファイルの授受単位	ファイル受信(ダウンロード)の単位	データファイルを受信(ダウンロード)させる場合、情報種×1種、レコード×n件をまとめた情報種毎の新着データファイルを一回でダウンロードできること。	◎	4.2.1	○	
2-3			さらに、情報種×m種、レコード×n件をまとめた複数種新着データファイルの一括ダウンロードもできることを推奨する。	○	○			
2-4			ファイル送信(アップロード)の単位	Web-EDIでのデータファイルのアップロード単位は、バックエンドシステムのデータ処理単位で完結し送信することとし、情報種×1種、レコードn件の1データファイルにまとめてアップロードすること。 この際、データ処理単位でのデータの完全性を送信側で保証すること。 送信側の都合でデータ処理単位を分割してWebにアップロードする場合(例: 配信準備できたデータから随時Webにアップロード)、同一処理単位の全データがアップロード完了するまで、受信側がデータファイルをダウンロードできないようにすることを推奨する。	◎	4.2.2	○	
2-5	ファイル形式		ファイル形式は、JAMA・JAPIA標準EDIFACT形式を標準とするが、受発注者間の協議によりCSV形式も考慮することを推奨する。 ※自動車業界標準XMLファイル形式は、2011年4月策定完了の予定。 それまでの間にXML形式のデータファイルを使用する場合は、他の国際標準に準拠したXMLファイル形式とすること。	○	4.3	○		
2-6		EDIFACT形式	EDIFACT形式のデータファイルを提供する場合、情報種(ビジネスドキュメント名称)とデータ項目定義(名称、桁数、タイプ、必須/任意)などのシンタックスルールの仕様基準及び交換構造は、JAMA・JAPIA標準に準拠すること。 ※詳細は『JAMA・JAPIA取引情報標準書』及び『JAMA・JAPIA EDIFACT導入ガイドライン』の最新版を参照のこと。	◎	4.3.1	○		
2-7		CSV形式	CSV形式のデータファイルで使用する文字コードはS-JISコードを推奨する。S-JISコードを使用しない場合は、同一ファイルでのコード体系の混在はさけること。 また、CSV形式のデータファイル内においては、カンマ、ダブルクォートなど制御文字が混在しないように配慮することを推奨する。データ中に、カンマ、ダブルクォートなどの制御文字を混在させざるを得ない場合は、全項目をダブルクォート括弧にするなどの対処をすること。	◎	4.3.2	○		
2-8			CSV形式ファイルにおける各項目の並びはJAMA・JAPIA/EDIFACT標準シンタックスルールの順序に従い、繰り返し項目がある場合は最大数まで全て充当することが望ましい。 JAMA・JAPIA/EDIFACT標準シンタックスルールの順序に従わない場合は、事前にデータファイル送受信の当事者間でデータフォーマットを合意すること。	◎		○		
2-9		1情報種複数レコードのCSV形式データファイルにおいては、ヘッダー・データの2種類のレコードから構成されることが望ましい。 また、CSV形式データファイル受信(ダウンロード)の際には、ヘッダー有無を指定可能にすることが望ましい。 1情報種複数レコードのCSV形式データファイルを使用することが望ましいが、複数情報種複数レコードのCSV形式データファイルを使用せざるを得ない場合においては、ヘッダー・データ・トレーラの3種類のレコードから構成されることが望ましい。	△		○			
3-1	Web-EDI運用環境要件	Web-EDI運用環境	ネットワーク	Web-EDIへの接続回線はJNXであることを基本とする。 ただし、受注者側でJNXでの接続が不可の場合は、以下の対処をすること。 ・接続回線は、ダイヤルアップ、専用線による接続、ADSLや光ケーブルによる常時接続などの一般的な接続方法であること。 ・ネットワークのプロトコルはTCP/IPを推奨する。 ・SSLの実装などのセキュリティを考慮すること。	◎	5.1.1	○	
3-2			使用するブラウザ	IEなどの一般的に普及しているブラウザの使用を前提としたWeb-EDIを設計すること。	◎	5.1.2	○	
3-3			OS・ブラウザのバージョンアップ対応	新規にWeb-EDIを構築した際には、その段階で対応できるブラウザやそのバージョンなどを明確にしておくこと。	◎	5.1.3	○	
3-4			OSやブラウザのバージョンアップが発生した場合、新しいバージョンでWeb-EDIを利用した際に不具合が発生しないかテストを行い、対応可能リストなどでユーザーに連絡することを推奨する。	○	○			
3-5			その他Web-EDI運用時の注意点	Web-EDIを運用する際は、発注者及び受注者の不利益が発生しない様、以下の点(セキュリティ、データ保存期間、問合せ先)について双方で認識し、覚書などで補完しておくことを推奨する。	○	5.2	○	
3-6			セキュリティ	Web-EDIで交換されるデータの重要性を十分考慮し、セキュリティを維持する為の運用ルールを合意することを推奨する。 (例)通信の暗号化、不正アクセスに対する対策、発注者企業・受注者企業の双方側のなりすましに対する対策、等	○	5.2.1	○	
3-7			データ保存期間	Web-EDI内にデータを保存しておく期間について合意することを推奨する。	○	5.2.2	○	
3-8			問合せ先の掲載方法	Web-EDIのトップ画面などに問合せ先を掲載すること。	◎	5.2.3	○	

項番	大項目	中項目	チェック項目	重要度		チェック欄		備考
				◎必須 ○強く推奨 △推奨	ガイドライン 参照先	○対応済 ×未対応 -非該当		
1	【付録】Webブラウザとしての追加機能要件	帳票印刷機能	注文書・現品票／かんばん・納品書・受領書・支給書などの帳票のPDFなどによる印刷機能を備えること。 また、現品票／かんばん・納品書・受領書・支給書のイメージはJAMA・JAPIA標準に準拠することを推奨する。 ※ 各帳票のイメージの詳細は『JAMA・JAPIA-EDI 標準帳票ガイドライン』の最新版を確認のこと。	◎	7.1	○		
2		帳票印刷順序指定機能	帳票のPDFなどのイメージデータをダウンロードする際、出力順を受信者側でも指定可能とし、(工区・出荷場単位など)受信者が指定する単位で伝票発行が可能となる機能を備えていることを推奨する。	○	7.2	○	イメージデータファイルの出力順を指定してダウンロードすることは可能。ただし、ダウンロード後の出力順変更は不可。	
3		受信データファイルのCSV形式への変換機能	受信者が受信したデータをバックエンドシステム(自社システム)に手入力するなどを想定し、受信したEDIFACT形式データファイルの内容をCSVファイルで出力する機能も備えていることが望ましい。	△	7.3	○		